

検査項目のご説明

検査項目		内容	関連する主な疾患・異常	
身体測定	標準体重	身長(m)×身長(m)×22で計算され、理想的とされる体重です。 【例】160cmの人の場合、1.6×1.6×22=56.3kg	肥満、やせすぎ	
	BMI	体重(kg)÷{身長(m)×身長(m)}で計算され、理想的な値は22です。 統計上この値に近いほど病気にかかりにくいといわれています。 【例】160cm・55kgの人の場合、55÷(1.6×1.6)=21.5		
	脂肪率	体に占める脂肪の割合です。 数値は、体内の水分量により変動します。		
	腹囲	メタボリックシンドロームの診断基準の一つです。 男性85cm、女性90cm以上が対象となります。		
聴力検査	オーゾ	1000Hz(低音域)と4000Hz(高音域)の音が小さくても聞きとれるかどうかを調べます。	難聴、聴神経腫瘍	
循環器系検査	血圧検査	心臓が収縮し血液を送り出す時が最高血圧、血液が心臓に流入し拡張した時が最低血圧として表されます。	高血圧、低血圧	
	心電図検査	心臓が動いている時に流れる微弱電流を波形で記録し、心臓の電気的活動に異常がないか検査します。	不整脈、狭心症、心筋梗塞	
眼科系検査	視力検査	大きさの異なるランドルト環というマークの切れ目が見えるかどうかで判断します。	近視、遠視	
	眼圧検査	眼球内は房水という液体によって圧力が一定に保たれています。 これを眼圧といい、眼球に風を当て、その反射から圧力を調べます。	緑内障、高血圧	
	眼底検査	眼底(目の奥)の状態を写真撮影して調べます。	眼底出血、緑内障、白内障、高血圧や糖尿病による眼の合併症	
	視野検査(FDT)	視野欠損の有無を検査します。緑内障のスクリーニング検査です。	緑内障	
呼吸器系検査	肺機能検査	大きく息を吸い込んだり、吐き出したりして肺の機能を測定する検査です。	慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、肺線維症	
	胸部レントゲン検査	X線を照射して、肺結核、肺炎、肺がんなどの呼吸器系の病気や心臓肥大、大動脈硬化症などの循環器系の病気を発見します。		
	胸部CT検査	X線の光束を検知し、コンピューターによって解析を行い、部位の断層画像(輪切りの画像)を作成し、肺がんなどの病気を発見します。 前回画像と今回画像を差分(サブトラクション)し、より小さな肺がんも発見できるシステムを導入しています。		
消化器系検査	胃部レントゲン検査	バリウム(造影剤)を飲んで、テレビモニターでの透視とX線撮影を行い、食道・胃・十二指腸の病気を発見します。	胃がん、食道がん、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃炎、食道炎、胃ポリープ	
	胃管内視鏡検査・生検	一般に胃カメラと呼ばれる検査です。内視鏡と呼ばれる直径約5.9mmの軟らかい管の先にレンズがついたもので、直接、食道・胃・十二指腸の中を見ることができます。胃カメラの方法は経口と経鼻から選択できます。 生検：病気が疑われる部分の組織を一部とり、顕微鏡で悪性かどうかを調べます。		
	大腸内視鏡	事前に下剤を飲み、腸をきれいにした状態で内視鏡を肛門より挿入し、肛門から盲腸までの大腸全体を観察します。 生検：病気が疑われる部分の組織を一部とり、顕微鏡で悪性かどうかを調べます。		大腸がん、ポリープ
	便潜血検査	便に消化管から出た血が含まれているかどうかを調べる検査です。		大腸がん、大腸ポリープ
	ピロリ菌抗体検査	ピロリ菌に感染しているかどうか血液で調べる検査です。 除菌治療終了後もしばらくの間は陽性になることもあります。		胃潰瘍、胃炎、胃がん
	ペプシノーゲン検査	萎縮性胃炎の程度を血液で調べる検査です。		萎縮性胃炎
超音波検査	腹部超音波検査	超音波画像から肝臓、胆のう、膵臓、腎臓、腹部大動脈の状態を調べる検査です。 臓器の大きさ・腫瘍・ポリープ・結石・のう胞・石灰化などが分かります。	肝・胆のう・膵・腎がん、胆石、腎結石、腹部大動脈瘤	
	下腹部超音波検査	超音波画像から下腹部の臓器(男性：膀胱・前立腺、女性：膀胱・子宮・卵巣)を調べる検査です。	膀胱がん、前立腺肥大、子宮筋腫、卵巣のう腫	
	頸動脈超音波検査	超音波画像から頸動脈の状態を検査します。	動脈硬化症	

肝臓検査	総蛋白	血液中の蛋白質の総量を表します。 栄養状態や肝臓、腎臓の状態を表します。	肝硬変、慢性肝炎、膠原病、 多発性骨髄腫、 ネフローゼ症候群
	アルブミン	肝臓で生産されるタンパク質で肝障害の程度を反映します。 また、排泄に関わる腎障害も反映します。	
	A/G比	蛋白質を構成しているアルブミンとグロブリンの比率を表します。	
	AST(GOT)	肝臓・心臓・筋肉に多く存在する酵素で、それらの臓器の損傷により高値になります。	肝炎、心筋梗塞、脂肪肝、 筋肉疾患
	ALT(GPT)	肝臓に多く含まれている酵素で、肝臓の損傷により高値になります。	肝炎、脂肪肝
	LDH	広く体内の各臓器に存在する酵素で、臓器の損傷の程度を表します。	肝炎、心筋梗塞、脂肪肝、 腫瘍、腎不全、肺炎
	総ビリルビン	胆汁色素で、主に肝臓・胆道の障害を表し、黄疸の指標となります。	黄疸、肝臓疾患、胆石
	ALP	肝臓・胆道や骨などに多く含まれる酵素で、これらの臓器に障害があると上昇します。	肝炎、肝がん、閉塞性黄疸
	γ-GTP	肝臓の解毒作用に関する酵素で、肝臓や胆道に異常があると上昇します。	アルコール性肝障害、 慢性肝炎、薬物性肝障害、 胆汁うっ滞
	LAP	肝臓に含まれる酵素で、胆道が閉塞したときに高値を示します。	肝炎、肝硬変、肝がん、 胆道疾患、肺炎
	コリンエステラーゼ	肝臓で作られる酵素の一種で、肝障害で異常値を示します。また、有機リン酸系農薬による中毒では数値が低下し重症度の指標ともなります。	脂肪肝、肝硬変、 ネフローゼ症候群、 有機リン酸系農薬中毒
肝炎検査	B型肝炎ウイルスおよびC型肝炎ウイルスの感染の有無を調べます。	肝炎	
腎機能検査	尿素窒素	蛋白質が分解されたもので、多くが尿中に排泄されますが、腎機能が低下すると高値を示します。	腎機能障害、 閉塞性尿路疾患
	クレアチニン	アミノ酸が代謝されてできたもので、多くが尿中に排泄されますが、腎機能が低下すると高値を示します。	
	尿蛋白・尿潜血	尿中の蛋白質や肉眼では見えないわずかな血液(潜血)の有無を調べます。	腎臓や尿路の炎症、結石、腫瘍
	ウロビリノーゲン	胆汁に含まれるビリルビンが腸内細菌によって分解されてできる物質で、大部分は便として排泄されます。尿中ウロビリノーゲンの増減によって肝臓や胆道の異常がわかります。	胆道閉塞、肝炎、肝硬変、 肝障害、溶血性貧血
	尿沈渣	尿中の有形成分(赤血球、白血球、細胞、細菌等)の有無を顕微鏡で調べます。	腎炎、膀胱炎
	e-GFR	クレアチニン値と年齢、性別から推算します。 慢性腎臓病(CKD)の診断、重症度判定に用いられます。	慢性腎臓病(CKD)
尿酸検査	尿酸	蛋白質の一種であるプリン体が分解してできた老廃物で、通常は尿中に排泄されます。腎機能の低下やプリン体の過剰摂取で血液中に増加します。痛風や腎臓機能の指標になります。	高尿酸血症(痛風)、腎不全
脂質検査	総コレステロール	脂肪性分の一種で細胞の表面や、消化酵素の胆汁、ホルモンを作る材料として重要なものです。 多すぎると動脈硬化を進行させる直接的な危険因子です。	脂質異常症、動脈硬化症
	HDLコレステロール	善玉コレステロールと呼ばれるもので、血液中の悪玉コレステロールを回収し動脈硬化を防ぐ役割があります。	
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれるもので、全身にコレステロールを運び役割があります。増加すると血管壁に蓄積し動脈硬化を進行させる直接的な危険因子です。	
	nonHDLコレステロール	総コレステロール値からHDLコレステロール値を引いた値で、動脈硬化に関する指標のひとつです。	
	中性脂肪	脂肪性分の一種で、糖質がエネルギーとして脂肪に変化したものです。多すぎると動脈硬化の原因となります。	
糖尿病検査	空腹時血糖・空腹時尿糖	空腹時の血液中と尿中のブドウ糖の量を表します。	糖尿病、ホルモン異常 膵内分泌腫瘍
	75gブドウ糖負荷試験	75gのブドウ糖を飲んで、1時間後・2時間後の血糖値・尿糖値を測定し、その変動から糖尿病を診断します。	
	HbA1c	過去1~2ヶ月の平均的な血糖を反映します。	
貧血・ 血小板・ 白血球検査	赤血球数	酸素を運ぶ役割のある赤血球の数を表します。	貧血、多血症
	血色素量	赤血球に酸素をとりこむ役割をする血色素(ヘモグロビン)の濃度を示します。	
	ヘマトクリット	血液に含まれる赤血球の割合を表します。	
	フェリチン	鉄を貯蔵する蛋白で体内の鉄貯蔵量を表し、鉄欠乏性貧血などの指標になります。	貧血、白血病、肝炎
	血小板数	出血を止める働きのある血小板の血液中の数を表します。	血小板減少性紫斑病、貧血、 肝硬変、白血病
	白血球数・白血球分類	体内の異物と戦う役割をもつ白血球の血液中の数を表します。 白血球は好中球、リンパ球、単球、好酸球、好塩基球の5つに分類され、その増減により疾患を知ることができます。	感染症、白血病、アレルギー

血清検査	CRP	炎症や体の組織に障害が起きたときに増加するタンパク質の一種です。	細菌・ウイルス感染症、膠原病
	RA	リウマチ因子の有無を調べる検査です。	リウマチ、膠原病
膵炎検査	血清アミラーゼ	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵臓や唾液腺の疾患で高値になります。	膵疾患、耳下腺炎
梅毒検査	RPR法	梅毒感染の有無を調べる検査です。RPR法とTPHA法の2法を組み合わせで診断します。結核、膠原病等でも陽性になることがあり、これを生物学的偽陽性といいます。区別のためには精密検査が必要です。	梅毒、自己免疫疾患
	TPHA法		
血清がん反応	CEA	腫瘍マーカーとも呼ばれ、体に腫瘍ができると血液中に特徴的な物質が増加します。ただし腫瘍があっても値が上昇しない場合や、逆に腫瘍がなくても値が上昇する場合があります。	大腸がん、胃がん、喫煙者
	AFP		肝がん、肝炎、肝硬変
	CA19-9		膵がん、胆道がん、卵巣がん
前立腺がん検査	PSA	前立腺特異抗原のことで、前立腺がんの診断や治療効果の判定に用いられる検査です。前立腺肥大症や前立腺炎でも高値を示します。	前立腺がん、前立腺肥大症、前立腺炎
乳がん検査	マンモグラフィ	乳房専用のX線撮影機で、乳房の上下・左右をはさんで乳がん等を調べる検査です。	乳がん
	乳腺超音波	超音波画像を用いて、乳腺に異常がないか調べます。	
子宮頸がん検査	内診	子宮が大きくなっていないか、卵巣が腫れていないか、膣や頸管に異常がないかなどを医師が診察します。	頸管ポリープ、膣炎、子宮筋腫、卵巣のう腫
	頸部細胞診	子宮頸がんの発生しやすい部位の細胞を軽く擦り採り、細胞に異常がないか調べます。	乳がん、乳腺症
	HPV	子宮頸がんの原因となるヒト・パピローマウイルス感染の有無を調べる検査です。	
歯科検査	歯科検査	歯や歯肉などの健康状態をチェックします。	虫歯、歯周疾患
脳ドック検査	MRI検査	磁気共鳴画像診断装置(放射線を使用せず磁石と電波を利用して脳の断面写真を撮る装置)で脳の内部の構造を撮影する検査です。	脳腫瘍、脳梗塞、脳萎縮、脳出血、先天性奇形
	MRA検査	上記と同じ装置で、血液の水素原子の動きをとらえることにより脳の血管のみを撮影し脳動脈瘤があるか、また血管が細くなり塞がりかけていないかなどを調べる検査です。	脳動脈瘤、動脈硬化症、モヤモヤ病
	VSRAD	上記と同じ装置で、脳内部の萎縮度を正常と比較する検査です。	早期アルツハイマー型認知症
	長谷川式テスト	簡単な診断テストを行い、認知症の診断に用います。	認知症
	頸動脈ドップラー検査	超音波で頸動脈の動脈硬化等の状態や、脳へ向かう血流の速度を検査します。	動脈硬化症
その他の検査	骨密度	骨粗鬆症のスクリーニング検査です。	骨粗鬆症
	脈波伝達速度検査(PWV)	動脈硬化症のスクリーニング検査です。PWV(脈波伝播速度)は動脈壁の硬さを表し、ABI(足関節/上腕血圧比)は下肢動脈のアテローム性動脈硬化による狭窄、閉塞の診断の指標となります。	動脈硬化症
	血管拡張反応検査(FMD)	早期の動脈硬化の発見を目的とした検査で、血管内皮機能を評価します。血管内皮機能が低下していると拡張反応が悪くなります。	動脈硬化症